

【事業実績】

(1) 国際ネットワークの形成

1. 国内連携館交流会議

福井県立美術館、二階堂美術館、龍子記念館、横山大観記念館等で計6回の対面会議を実施。情報共有や事業推進の協議を行い連携強化。

2. 海外美術館等との共同調査・研究

フランスのジベルニー印象派美術館、アメリカのボストン美術館、マサチューセッツ大学と共同研究を実施。国内連携会議にも出席、近代日本文化と海外美術の歴史、関連性、共通性をテーマに調査を進め、国際的な視点を取り入れた相互理解を推進。

3. 国際講演会の開催

共同研究に関わる海外美術館の学芸員らによる講演会を開催。近代日本文化の魅力を発信し、異文化交流と日本文化の理解促進に貢献。

※2024年1月23日 「横山大観でつながるミュージアム国際講演会」東京文化財研究所

参加者：会場 57名、同時配信 YouTube 視聴 130名

講演者：Victoria WESTON（マサチューセッツ大学教）、Cyrille SCIAMA（ジベルニー印象派美術館館長兼学芸員）、Marie DELBARRE（ジベルニー印象派美術館学芸員）佐藤志乃（横山大観記念館学芸員）、Anne NISHIMURA（ボストン美術館学芸員）



交流会議



国際講演会



講演者



講演会の様子

参加者の声 様々な学術的知見が得られ、各々内容も濃く、聴講しごたえのある講演会だった。色々な角度からのへの見方を提起していただき、大変刺激になった。配布された翻訳が良かった。同時通訳より持って帰れるしわかりやすかった。素晴らしい講演だった。

4. 大観デジタルカタログ作成 (<https://taikan.tokyo/digitalbook/#page=1>)

横山大観作品 62 点の解説等を掲載したデジタルカタログを作成、多言語化し。海外連携館と共有。ホームページで無料公開。研究資料や展覧会企画に活用。

(2) 連携による広域活動

1. ワークショップ開催

大観愛用の寺内遊神堂の雲肌麻紙と得応軒の絵筆と同様のものを使った日本画体験。日本画とは何かを紙・墨・筆等についての解説とビデオ鑑賞を交えての講義を実施。その後、文化遺産オンラインで大観作品を参考としてみて、実際に各自自由に描いた。

文化活動の活性化と地域住民・美術愛好家の関心向上に貢献した。

※2024年11月30日 横山大観記念館 参加者12名(抽選)

※2025年1月25日二階堂美術館 参加者17名(先着順)



横山大観記念館にて



横山大観記念館にて



二階堂美術館にて



大分合同新聞記事

参加者の声 日本画の材料に触れて、もっといろいろな日本画を見てみたいと思った。文化遺産オンラインというのがあることや、大観がこんなにいろいろなタイプの絵を描いていることが知れてよかった。実際に描くことができて楽しかったが難しかった。また参加したい。

2. 講演・出張授業の実施

幅広い世代に日本文化や近代日本美術の魅力を伝え、次世代への文化継承を推進。

※2024年10月25日 横山大観と越前和紙講演会 参加者65名

参加者の声 新たな発見が聞けてよかった。福井の展覧会も行ってみたかった。生々流転誕生秘話は魅力的な話題だった。身近にあるとは知らなかったなので、今度はぜひ横山大観記念館にいつてみたいと思う。

上野区民館にて



※2024年12月24日 特別授業日本航空訓練部授業 参加者22名(教室とZOOM)

参加者の声 美術についての学びがとても深まり、美術を楽しむ新たな視点を教えて頂いた。「海外に目をむけることで今自分たちが手にしているもの(絹/和紙/墨...)の価値を再認識し、日本にしかない価値の創造に感動した。日本の魅力を再認識し世界に発信することが私たちの使命だと痛感した。



日本航空客室訓練部にて



※2025年1月16日 特別授業湯島小学校 参加者58名



湯島小にて

参加者の声 絵具は青と赤を混ぜたら紫なのに、顔料は青と赤を混ぜると灰色になるなんてしらなかったからびっくりした。もっと描きたかった。大先輩の大観が動物好きで嬉しかった。お話もビデオも全部面白かった。

3. 多言語ビデオの作成・活用

※国史跡および名勝指定の横山大観旧宅・庭園と作品の魅力を伝える多言語ビデオを制作。国際講演会、ワークショップ、小学校授業などで活用し、日本文化の魅力を発信

視聴者の声 大観の魅力がたくさんで見応えがあった。ナレーションが良くてドラマを見ているように感動した。巨匠ではあるが、苦勞もして、とても身近なひとに思えてよかった。